

食物アレルギー緊急時対応マニュアル

アレルギー症状への対応の手順

アレルギー
症状がある
(食べ物の関与
が疑われる)

原因食物を
食べた
(可能性を含む)

原因食物に
触れた
(可能性を含む)

<発見者が行うこと>

- 1 子供から目を離さない, 1人にしない
- 2 助けを呼び, 人を集める
- 3 エピペン®と内服薬を持ってくるよう指示する

A 施設内での役割分担

<アレルギー症状>

全身の症状

- ・意識がない
- ・意識もうろう
- ・ぐったり
- ・尿や便を漏らす
- ・脈がふれにくい
- ・唇や爪が青白い

呼吸器の症状

- ・声がかすれる
- ・犬が吠えるような咳
- ・のどや胸が締め付けられる
- ・咳
- ・息がしにくい
- ・ゼーゼー, ヒューヒュー

消化器の症状

- ・腹痛
- ・吐き気, 嘔吐
- ・下痢

皮膚の症状

- ・かゆみ
- ・じんま疹
- ・赤くなる

顔面・目・口・鼻の症状

- ・顔面の腫れ
- ・目のかゆみや充血, まぶたの腫れ
- ・くしゃみ, 鼻水, 鼻づまり
- ・口の中の違和感, 唇の腫れ

緊急性が高いアレルギー症状はあるか?
5分以内に判断する

B 緊急性の判断と対応B-1参照

ない

ある

C 緊急性の判断と対応B-2参照

- 1 ただちにエピペン®を使用する
- 2 救急車を要請する(119番通報)
- 3 その場で安静にする
- 4 その場で救急隊を待つ
- 5 可能なら処方されている内服薬を飲ませる

C エピペン®の使い方

D 救急車要請のポイント

反応がなく呼吸がない



心肺蘇生を行う

E 心肺蘇生法とAEDの手順

内服薬を飲ませる

保健室または安静に
できる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察し, 症
状チェックシートに従い判断
し, 対応する
緊急性の高いアレルギー症
状の出現には特に注意する

F 症状チェックシート

A

学校（園）内での役割分担

それぞれが役割分担を確認し、事前にシミュレーションを行う

管理・監督者（園長・校長など）

- 現場に到着次第、リーダーとなる
- それぞれの役割の確認及び指示
- エピペン®の使用又は介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

発見者「観察」

- 子供から離れず観察
- 助けを呼び、人を集める(大声または他の子供に呼びに行かせる)
- 教職員A, Bに「準備」「連絡」を依頼
- 管理者が到着するまで、リーダー代行となる
- エピペン®の使用または介助
- 薬の内服介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

教職員 A 「準備」

- 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を持ってくる
- エピペン®の準備
- AEDの準備
- 内服薬の準備
- エピペン®の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

教職員 B 「連絡」

- 救急車を要請する(119番通報)
- 管理者を呼ぶ
- 保護者への連絡
- さらに人を集める(校内放送等)

教職員 C 「記録」

- 観察を開始した時刻を記録
- エピペン®を使用した時刻を記録
- 内服薬を飲んだ時刻を記録
- 5分ごとに症状を記録

教職員 D～F 「その他」

- 他の子供への対応
- 救急車の誘導
- エピペン®の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

B

緊急性の判断と対応

- ★ アレルギー症状があったら5分以内に判断する！
- ★ 迷ったらエピペン®を打つ！ただちに119番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便をもらす
- 脈がふれにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸
(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

【消化器の症状】

- 持続する（がまんできない）おなかの痛み
- 繰り返し吐き続ける

1つでも当てはまる場合

ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

1 ただちにエピペン®を使用する！

➡ **C** エピペン®の使い方

2 救急車を要請する(119番通報)

➡ **D** 救急要請のポイント

3 その場で安静にする(下記の体位を参照)
立たせたり、歩かせたりしない！

4 その場で救急隊を待つ

5 可能なら内服薬を飲ませる

内服薬を飲ませる

保健室または安静にできる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察し症状チェックシートに従い判断し、対応する
緊急性の高いアレルギー症状の出現には特に注意する

F 症状チェックシート

◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う

➡ **E** 心肺蘇生とAEDの手順

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため
仰向けで足を15~30cm高くする

吐き気、嘔吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、
体と顔と横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし、
後に寄りかからせる

C

エピペン[®]の使い方

★ それぞれの動作を声に出し、確認しながら行います

1 ケースから取り出す。



ケースのカバーキャップを開け、
エピペン[®]を取り出す

2 しっかり握る。



オレンジ色のニードルカバーを下に
向け、利き手で持つ
“グー”で握る！

3 安全キャップを外す。



青い安全キャップを外す

4 太ももに注射する。



太ももの外側にエピペン[®]の先端
(オレンジ色の部分)を軽くあて、
“カチッ”と音がするまで強く押し
あて、そのまま5つ数える
注射した後すぐに抜かない！
押しつけたまま5つ数える！

5 確認する。



使用前 使用後

エピペン[®]を太ももから離し、オレ
ンジ色のニードルカバーが伸びてい
るか確認する
伸びていない場合は「4に戻る」

6 マッサージする。



打った部分を10秒間、マッサージ
する

介助者がいる場合



介助者は、子供の太ももの付け根と膝
をしっかり押さえ、動かないように固定
する

注射する部位

○衣類の上から、打つことができる
○太ももの付け根と膝の中央部で、
かつ真ん中 (A) よりやや外側に
注射する

仰向けの場合



座位の場合



D

救急要請 (119番通報) のポイント

★ あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える

★ 119番をダイヤルする(携帯電話の場合は、携帯電話からかけていることを告げる)



火事ですか？
救急ですか？

救急です



1 救急であることを伝える



住所はどこですか？

()市()町
()丁目()番地
()号の()学校で
す



2 救急車に来てほしい住所を伝える

住 所：

学 校 名：

電話番号：

※あらかじめ必要事項を記載しておく



どうしましたか？

3年生の男子児童が給
食を食べた後、呼吸が
苦しいと言っています



3 「いつ、だれが、どうして、
現在どのような状況なのか」を
分かる範囲で伝える

※ エピペン®の処方及び使用の
有無を伝える



あなたの名前と連絡先
を教えてください

私の名前は()です
電話番号は()です



4 通報している教職員の氏名と
連絡先を伝える

※ 119番通報後も連絡可能な電話
番号を伝える



5 救急車を誘導する教職員を校門等へ向かわせる

向かっている救急車から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある

○通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく

○その際、救急隊が到着するまでの救急処置の方法などを必要に応じて聞く

E

心肺蘇生とAEDの手順

- ★ 強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！
- ★ 救急隊に引き継ぐまで、または子供に普段どおりの呼吸や目的のある仕草が認められるまで、心肺蘇生を続ける

1 反応の確認

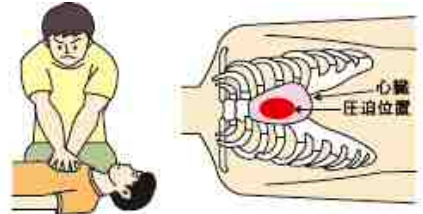
肩を叩いて大声で呼びかける
乳幼児では足の裏を叩いて呼びかける

反応がない！

2 通報

119番通報とAEDの手配を頼む

【胸骨圧迫のポイント】



- ◎強く(胸の厚さの約1/3)
- ◎速く(少なくとも100回/分)
- ◎絶え間なく
(中断を最小限にする)
- ◎圧迫する位置は「胸の真ん中」

3 呼吸の確認

10秒以内で胸とお腹の動きを見る



【人工呼吸のポイント】

- 息を吹き込む際
- ◎約1秒かけて
- ◎胸の上がりが見える程度

普段どおりの呼吸をしていない！

※ 普段どおりの呼吸をしているようなら、観察を続けながら救急隊の到着を待つ



【AED装着のポイント】

- ◎電極パットを貼り付ける時も、できるだけ胸骨圧迫を継続する
- ◎電極パットを貼る位置が汗などで濡れていたらタオル等でふき取る
- ◎6歳くらいまでは小児用電極パットを貼る
なければ成人用電極パットで代用する

4 必ず胸骨圧迫！ 可能なら人工呼吸！

30:2

ただちに胸骨圧迫を開始する
人工呼吸の準備ができ次第、可能なら人工呼吸を行う



【心電図解析のポイント】

- ◎心電図解析中は、子供に触れないように周囲に声をかける

5 AEDのメッセージに従う

電源ボタンを押す
パッドを貼り、AEDの自動解析に従う



【ショックのポイント】

- ◎誰も子供に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押す

F

症状チェックシート

- ★ 症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する
- ★ の症状が1つでも当てはまる場合、エピペン®を使用する
(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エピペン®を使用した時刻(時 分)

全身の症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈がふれにくい又は不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い		
呼吸器の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸	<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳	
消化器の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返して吐き続ける	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1~2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1~2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み(がまんできる) <input type="checkbox"/> 吐き気
目・口・鼻・顔面の症状	<div style="background-color: red; color: white; text-align: center; padding: 10px;"> 上記の症状が 1つでも当てはまる場合 </div>	<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目のかゆみ, 充血 <input type="checkbox"/> 口の中の違和感, 唇の腫れ <input type="checkbox"/> くしゃみ, 鼻水, 鼻づまり
皮膚の症状		<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんま疹 <input type="checkbox"/> 部分的な赤み
		1つでも当てはまる場合	1つでも当てはまる場合

- 1 ただちにエピペン®を使用する
- 2 救急車を要請する(119番要請)
- 3 その場で安静を保つ
(立たせたり, 歩かせたりしない)
- 4 その場で救急隊を待つ
- 5 可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応(B-2)

**ただちに
救急車で搬送**

- 1 内服薬があれば飲ませ, エピペン®を準備する
- 2 速やかに医療機関を受診する(救急車の要請も考慮)
- 3 医療機関に到着するまで, 5分ごとに症状の変化を観察し, の症状が1つでも当てはまる場合, エピペン®を使用する

**速やかに
医療機関を受診**

- 1 内服薬があれば飲ませる
- 2 少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し, 症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

**安静にし
注意深く経過観察**

緊急時に備えるために

- 1 各学校(園)においては、下記について協議する委員会(アレルギー疾患対応検討委員会等)を設置する
 - (1) アレルギー緊急時対応マニュアル(校内用)の作成と共通理解
 - (2) アレルギー対応が必要な児童生徒の個別支援プランの作成と共通理解
 - (3) 職員の役割分担の確認
- 2 緊急時の対応等を含めたアレルギーに関する職員研修を毎年実施する
- 3 緊急対応が必要になる可能性がある児童生徒がいる場合は、生活管理指導表(アレルギー疾患用)や個別支援プランを確認するとともに、保護者や主治医からの情報等を全職員で共有する
- 4 緊急時にエピペン[®]等を確実に使用できるように、管理方法を決めるとともに、全職員で共通理解を図る
- 5 「症状チェックシート」(F)は複数枚用意して、症状を観察する時の記録用紙として使用する
- 6 エピペン[®]や内服薬を処方されていない(持参していない)児童生徒への対応が必要な場合も、基本的には「アレルギー症状への対応の手順」に従って判断する。その場合、「エピペン[®]使用」及び「内服薬を飲ませる。」の項は飛ばして、次の項に進んで判断する



このマニュアルは東京都の許諾を得て、東京都健康安全研究センター発行の食物アレルギー緊急時対応マニュアルを掲載しています。【承認番号26健研健第1311号】